

# 水と空



沼津地区環境保全協議会

第 139 号

発 行

沼津地区環境保全協議会

沼津市御幸町14-5

沼津商工会議所

編 集

同会 広報部会

## ひとこと

わたしと環境との関わりについて

沼津地区環境保全協議会 会長 小田 俊夫 …1

## 事業所訪問シリーズ 185

東芝機械株式会社を訪ねて

沖電気工業株式会社 社会システム工場 三枝元英 …2

## 環境セミナー

静岡県の環境放射線・放射能の現況

芝浦セムテック株式会社 顧問 佐竹哲郎 …5

## 沼津市環境政策課だより

…7

## 会の動き

…9

よい環境 ボクにもできるよ お手つだい

## 「わたしと環境との関わりについて」

沼津地区環境保全協議会  
会長 小田 俊夫



平成23年より沼津地区環境保全協議会の会長を佐竹会長から引継ぎました。知識・経験とも佐竹前会長と比べて力不足ですが、私なりに本協議会の活動を通じて会員各位並び沼津地区の環境保全向上のために頑張りたいと思っています。

まず、私と環境との関わりからご紹介します。

昭和50年、明電舎に入社し、当時、問題となっていました公害防止対策のために必要となる、ばい煙や排水の濃度測定業務を担当しました。入社後、公害防止管理者、作業環境測定士、危険物取扱者、環境計量士等多くの環境に関する資格を取得し、めっき排水等の処理施設の水質改善対策等の環境保全業務を約10年間担当しました。

その後、人事移動により社内・外の環境保全に関わる業務を担当することになり、昭和60年頃、本協議会の広報部員として、機関紙「水と空」の取材活動に参加し、多くの会員企業の見学をさせていただき、知見を広げる機会を与えてくれました。

また、本協議会のような異なる業種の会員の担当の方々と知り合うことにより、各種の有益な知見を得て、自社の活動も円滑に進めるきっかけにもなりました。特に、ISO14001の認証時には、佐竹前会長に会社に来ていただき環境保全担当者に説明や課題について相談にのって頂き、無事に認証を得ることができました。このように、本協議会への参加することによる会員各位の自社への経営に貢献に繋がるきっかけになると考えております。

ISO14001は環境管理責任者や主任内部監査員として活動してきましたが、環境管理のあり方が随分かわってきていることが分かります。従来は、サイト内の環境汚染防止や環境負荷低減を主体とした活動でしたが、現状は、経営環境に即した本来業務の環境活動や地域社会貢献活動を主な活動となっています。

本協議会も昭和48年4月に発足され、現在、沼津地区管内企業49社で組織し、公害関係法令の修得及び防止技術の研鑽を目的とし、地域に根ざすために年間3回発行している機関紙「水と空」もホームページに電子版として掲載し、会員ばかりでなく、より多くの人々にも本協議会の活動や環境情報を発信しています。

平成24年度は、昨年3月11日の東日本大震災の発生を決起として、原子力発電の是非が社会問題となっており、エネルギーのあり方について論議されています。

一方、環境に目を転ずれば、原子力発電の停止による地球温暖化対策も停滞する懸念があり、エネルギー戦略とともに大きな見直しも必要になり新エネルギー利用の技術開発及び制度改革を加速しなければなりません。

最後に、私たちの住む沼津市では、『沼津市環境基本計画』における環境目標「子どもも大人もみんなで地球環境を守るまち」の実現に向け、行動計画「沼津市地球温暖化対策実行計画」を策定し、市民・事業者・市等の各主体による取組を総合的かつ計画的に推進することになっています。本協議会は、事業活動及び市民の快適な環境づくりのため、研修・情報交換・交流の場としての機能を生かし、会員の活発な参加により地域社会に貢献できる諸事業を実施し、本地区の環境保全を積極的に推進していきたいと考えておりますので、会員各位のご協力をお願いします。

東芝機械株式会社を訪ねて

沖電気工業株式会社 社会システム工場 三枝元英

立秋は過ぎましたが残暑厳しい8月9日、沼津地区環境保全協議会広報部会の取材班5名で東芝機械株式会社 沼津本社工場を訪問致しました。

## 1. 会社概要

会社名	東芝機械株式会社
創業	昭和13年12月(1938.12)
設立	昭和24年3月(1949.3)
資本金	124億84百万円
連結売上高	1195億19百万円
連結従業員数	3,157名
事業内容	成型機、工作機械、油圧機器、先進機械、制御装置、鋳造・加工事業 環境関連事業

### 沼津本社工場概要

所在地	静岡県沼津市大岡 2068-3
開設	昭和17年4月(1942.4)
敷地面積	約180,000㎡
従業員数	1,369名(派遣社員含む)
取扱品目(グループ)	射出成型機、押出成型機、精密機器、電子制御装置、鋳物



沼津本社工場本館



環境取組み説明

## 2. 工場への環境への取組み

東芝機械沼津本社工場本館にて生産推進部長の市橋様より会社概要説明を伺いました。東芝機械グループは『ものづくり No.1 宣言』目指し、長年に渡る加工技術の蓄積で、環境調和型製品を提供し社会に貢献する姿勢を会社案内(DVD)と環境報告書2012から感じました。昨年度は東日本大震災で節電目標が東京電力から15%が出て、目標を20%にして工場では電気炉の使用電力が大部分を占めるので、休日操業の輪番操業を行い24%のピークカットが出来たとの事です。東電管内はどの事業所も同様な方法で乗り切ったように思います。とにかく去年は節電で大変でした。

### 3. 施設見学

#### 精密加工機

金型は切削した後で研磨加工を行い製品に仕上げますが、超精密・超高速技術などのいろいろな技術を駆使して、切削加工で鏡面仕上げとなる加工機が紹介されました。

加工サンプルは研磨して、磨いたようにピカピカで輝いていました。

高精度ガラス成形機はデジタルカメラや携帯電話機に搭載されるガラスレンズを生産する機械ですが、レンズも研磨して仕上げる高価なものであると思っておりましたが、成形して上げているとはデジタルカメラが安価に購入できる一因になっているのではないかと思います。

#### 射出成型機

射出成型機の環境負荷低減として、プラスチックを射出成型するときには数工程を同時に行い作業時間の短縮(省エネ)、油圧式から電動化することにより 1/3~1/2 の電力削減 (省電力)、油の冷却水の削減 (節水)、射出材料にガスを混ぜることやリサイクル可能な炭素繊維樹脂に変えて軽くする (軽量化) 技術を紹介していただきました。



射出成形製品



中央リサイクルセンター

鋳物工場では騒音対策として建物は防音建屋、敷地境界には集塵装置から発生する低周波音に対する防音壁に囲われておりました。

廃棄物は工場内に12箇所廃棄物ステーションがあり、ダストカートが置かれて分別されていました。名刺大より大きな廃棄物は中央リサイクルセンターに持ち込まれ、廃棄物と有価物はしっかりと分別出来る施設でした。中央リサイクルセンターのなかでも目に止まったのは、金属用砥石が有価物として扱われているコンテナが設置されていたことでした。廃棄物から有価物にする取組みが行われている事例として、一般的には埋立廃棄物になる金属用砥石ですが、リサイクル業者を探し出して有価物として資源化されていたのは驚きました。



環境啓蒙掲示板



油水分離槽

## 測定施設（芝浦セムテック）

環境関係の測定・分析は多く事業所では外部に委託しているのですが、沼津本社工場では同一敷地内に計量証明事業を行える関係会社があります。水質、大気、騒音・振動、作業環境、産業廃棄物等測定・分析が可能で、急ぎの測定にも対応が出来るそうです。

東芝機械グループ以外でも多くの企業・団体と取引されており、地域と密着されているところが伺われました。

油水分離槽、最終排水口での遠隔監視装置の設置状況等も見学させていただきました。

最後に今回の訪問時に説明・案内をしていただきました東芝機械株式会社 沼津本社工場の皆様にお礼を申し上げます。



東芝機械ソリューションプラザ

## ～静岡県の環境放射線・放射能の現況～ 「放射線・放射能の基礎」

沼津地区環境保全協議会は昨年の福島原発事故以来放射線・放射能に恐怖・嫌悪が先行する社会情勢に対し、正しい知識で現況を理解するために静岡県環境放射線監視センターの鈴木敦雄主査をお招きして環境セミナーを8月8日に開催した。

静岡県環境放射線監視センターは中部電力浜岡原発による放射線の影響を監視するため多くのモニタリングステーション・スポットで空間線量・積算線量および原発周辺の農畜産物の放射能濃度を測定している。

放射線・放射能の基礎知識として放射線の種類・透過力が線種により異なり、放射線の量をBq（ベクレル）で表し、被ばく量をSv（シーベルト）で表す。また、内部被曝と外部被曝では線種により影響が異なり、人体の影響は実効線量で評価する。

日常生活では自然放射線により被曝していて、医療のX線、CTスキャン等でも被曝している。また、食品にもカリウム40等の放射性物質を含有し、日本人は魚介類を主とし0.8mSv/年程度摂取していて、全てを合計すると4.48mSv/年被曝している。食品としては干椎茸、昆布が高い。

日本全体では空間線量率は西高東低で平均0.99mSv/年で、放射性物質が放出されると放射性プルームに乗り拡散する。特に降雨雪があると降下物となり地表面に落ちてくる。静岡市で測定を始めた1963年以降2010年までに2400Bq/m<sup>2</sup>で福島原発以降の積算線量は1300Bq/m<sup>2</sup>である。降下した放射性物質は植物では葉に沈着したり根から吸収されたりする。特にきのこはセシウムを吸収しやすい性質が有る。

放射線監視センターでは食品衛生法に規定された測定法の1/100~1/1000低い濃度まで測定する、高い精度で測定していて事故直後で茶葉は数十Bq/年あり、福島原発から放出された放射性物質が検出されていて現在ではかなり低くなっている。食品について、今年度から以前の基準より年間被ばく線量1mSvに相当する基準に引き下げられた。静岡県の食料品では基準を超えるものは見当たらない。

現在の状況は、実効線量評価において福島原発事故の影響で外部被曝で0.02mSv/年、浮遊塵0.005mSv/年と食物摂取により0.009mSv/年の内部被曝で、合計すると0.034mSv/年である。

静岡県の環境放射線は事故直後においては影響が見られたが、健康影響を心配するレベルでなく、現在はさらに低くなっている。一部の農作物では規制値を超えるセシウム



▲講演の様子

が検出されているので対策が必要ですが正しい知識を持ち正しく怖がる必要があります。

以上が鈴木主査が講演された内容です。今回のセミナーでは会員以外の参加者も多く、原発事故以降放射線・放射能の情報が氾濫するなかで、会員・市民の皆様に静岡県の情報を提供できました。

沼津市地球温暖化対策実行計画を策定しました。

本市では、地球温暖化を防止するため、市域からの温室効果ガス排出抑制のための中長期的な取組をまとめた沼津市地球温暖化対策実行計画を平成 23 年度に策定いたしました。

本計画は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき特例市以上に策定が義務付けられている「地方公共団体実行計画」であり、平成 22 年度に策定いたしました沼津市環境基本計画における環境目標「子どもも大人も地球環境を守るまち」を具体化するものとして位置づけ、本年度から平成 32 年度までを計画期間としています。

本計画の策定にあたっては、有識者や関係団体等から構成される、「沼津市地球温暖化対策実行計画策定協議会」を組織し、意見を伺いながら、庁内の関係課で構成する「庁内連絡会」において、計画案を検討いたしました。

昨年の夏は震災の影響もあり、全国的に節電努力がなされました。これを一過性のものとすることなく、市民・事業者・市が継続的に節電に取り組むことが重要であります。

省エネ、ごみの減量、エコドライブ、地産地消など、普段の生活でできることは多くあります。市では「ぬまづの森整備事業」や「ぬまづエコ活動コンテスト」を実施するなど、市民の皆さまの身の丈に合ったエコ活動が地域に広がっていくことを期待しております。

今後とも、「エコのまち沼津」を推進する中で、計画に盛り込まれた諸施策の積極的な展開を図り、将来的な低炭素社会の構築を目指してまいりますので、市民、事業者の皆さまの一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

## ○計画の概要

### ・計画の目的

沼津市内から排出される温室効果ガスの排出抑制に向け、本市を取り巻く環境や社会状況、地域特性等を踏まえ、市民・事業者・市等の各主体による取組を総合的かつ計画的に推進していくことを目的としています。

### ・計画の期間

平成 24 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日（9 年間）

### ・計画の目標

本計画では、本市から排出される温室効果ガスについて国の表明している目標値を踏まえ、1990 年度比で、2015 年度に 13%削減、2020 年度に 25%削減、2050 年度に 80%削減するとしております。

### ・目標達成に向けた各主体の役割

市民・・・沼津市の展開する施策もうまく活用しながらまずは日常の生活の中でできるものを実践していく

事業者・・・オフィスでの省エネや事業活動や製品そのものの低炭素化を図る

沼津市・・・市民・事業者がより取組を進められるよう普及啓発や情報提供等様々な支援を図る



・取組の基本方針

本計画では、心（行動・意識）、技（技術）、体、（社会基盤・仕組み）、の三つの側面から、環境負荷の少ない生活様式の定着促進、環境負荷の少ない事業活動の取組促進、効率的なエネルギー利用の促進など、6つの基本方針を置いています。

- ①環境負荷の少ない生活様式の定着促進
- ②環境負荷の少ない事業活動の取組促進
- ③効率的なエネルギー利用の促進
- ④再生可能エネルギーの利活用促進
- ⑤低炭素型の都市・交通基盤の確立
- ⑥農地や森林の保全

・市の取り組む施策

重点施策は、基本方針に基づき本市の温室効果ガスの排出特性や中長期的な視点を踏まえて、温室効果ガス削減のために必要性・重要性が高い施策を抽出し、重点施策として位置づけ取り組むこととしています。

- ①家庭におけるCO<sub>2</sub>の見える化
- ②中小事業者の主体的な取組の促進・支援
- ③街路灯・防犯灯のLED照明への転換促進
- ④太陽光発電の導入拡大に向けた仕組みづくり
- ⑤中心市街地における低炭素型都市基盤整備の促進
- ⑥ハード・ソフトの一体的な整備による自転車利用の促進

※沼津市ホームページにおいて、「沼津市地球温暖化対策実行計画」及び「沼津市地球温暖化対策実行計画概要版」を掲載しています。ぜひご覧ください。

<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sumai/kankyo/torikumi/ondan/index.htm>

## 会の動き

---

★平成24年5月16日

理事会

会 場 沼津商工会議所 2F 役員室

内 容 (1) 役員の改選について  
(2) 定時会員総会について  
(3) 会員の退会について

★平成24年5月30日

通常総会・懇親会

会 場 フーディアムビル 6F

内 容 (1) 通常総会  
①平成23年度事業報告及び収支決算承認の件  
②平成24年度役員改選の件  
③平成24年度事業計画(案)・収支予算(案)決定の件  
(2) 記念講演会  
「環境リスクと森づくり」  
講師：ぬまづの森づくり推進委員会 会長 佐竹哲郎 氏  
(3) 懇親会

★平成24年6月21日

事業部会

会 場 沼津商工会議所 2F 会議室

内 容 平成24年度事業視察について  
・環境関連施設視察見学会について  
・環境セミナーの内容について

★平成24年7月4日

広報部会

会 場 沼津商工会議所 2F 会議室

内 容 「水と空139号」について  
・ひとこと欄について  
・事業所訪問シリーズ185について  
・沼津市環境政策課だよりについて

★平成24年 8月8日

環境セミナー

会 場 沼津商工会議所 2F会議室

内 容 「放射線・放射能測定の実際」 ～静岡県の環境放射線・放射能の現状～

講師：静岡県環境放射線監視センター 主査 鈴木 敦雄氏

★平成24年 8月9日

事業所訪問取材

場 所 東芝機械（株）

内 容 「水と空」第139号の取材

・事業内容紹介・施設見学

★平成24年8月23日

広報部会

会 場 沼津商工会議所 2F会議室

内 容 (1)「水と空139号」の校正について

(2)「水と空140号」の企画について